

# 【ねがいましては】

平成12年1月25日

第121号

「ものさし」

KYOWA SCHOOL

2000年という節目を迎えた今年の冬休み、毎年の事ながら冬の講習は例年になくにぎやかでした。歴史を勉強するとわかると思いますが、受験というものはかなり新しい言葉のようです。

物的には、あれもこれもと豊かになりましたが、いざ「心」とか「人間性」という段階になるとどうやら豊かになったものかと「？」マークがついてきます。

今、彼らはそれぞれの思いを胸に「受験」を迎えようとしています。一部では早くも決定された生徒さんもいますが。(おめでとうございます)

最近、特に「推薦」という言葉が多く聞かれるようになりました。単純に考えれば、この「推薦」という言葉は、「この人物は、当校の判断によると、成績・人物ともに優秀であるので、貴校への入学に際し自信をもって薦めたい」というようなことのように感じられます。ただ、その中に本音として見え隠れするのが、受験生たちの、そして受験生をかかえるご両親たちの「早く決めててしまいたい。早く楽になりたい」という目的であるのはあたりまえのことだと思います。

ただ、かなり危険であるのは、誰でも楽はしたいところでしょうが、自らを鍛える、自らの精神力を鍛える、若さゆえ今だからできる「がんばり」を、その芽をある意味では摘んでしまっている気もいたします。一長一短ではあるでしょうが、義務教育という法で決められたものさしをすべての子等に平等に押し付けて、乗り越えなさいという今の制度の基では、ご覧のとおり子供たちの心の吹き出物が、ひずみが、多く氾濫しているご時世でもあります。

私は、この受験というものを、自分の成長材料としておおいに有効利用してはと思うのです。「己に勝てるか」のチャレンジがその中にあるように思います。「合格した、落ちた」が、勝った負けたに直つながるように思いますが、自身も、周りのものも、そのような見方をちょっと隣に置いておいて、受験終了時点で、己が己に点数をつけてみて、それで自身が満足できれば、それは「100点」、自分に「合格」となるわけです。自分がどこまでやれるか、自分のものさしにあてはめて、前を向き、歩くことだと思うのです。

他人を意識することなく、結果を恐れることなく、歩くことだと思うのです。

今まで、周りを、他人をばかり気にして歩いてきた人には、そこから脱出するいいチャンスもあるわけです。

「うどん」打ってきてくれてありがとう。「ホットケーキ」「七草粥」「いろいろなべ」「トン汁」おいしいおいしいと言って食べててくれたことに感謝します。みんなが仲良く食べている姿はよいものです。その食欲には驚きましたが、「おいしかった！パワーだ！さて、歩くぞ！」

みなさん一人一人がすべて「一人歩き」をしているこの教室の中で、ひたすら「まじめ」に「明るく」歩こうとする姿を眼にすることができ、ありがとうございます。

さて、君自身のハードル、まずは体当たりしてみよう！イッテ！と痛みを感じて、そしてその高さに驚き、よーし自分に勝つぞ！

さあ、きょうもどんどん質問もってきてや！

そして、心ん中、あったかくしよう！

## 2月の予定

1月29日(土) 第275回全珠連珠算検定試験 PM5:30～ 教室

2月 6日(日) 東京湯島天神・・チビッコそろばんまつり 当教室からは、5人の代表が出ます  
TV局が取材にきます。ニュースで会えるかも？

7日(月) 珠算検定合格発表

\* 新入学シーズンが近づきました。新入生を募集いたします。ご兄弟、お友達、お知り合いの方で  
この春より、はじめようと思っている方がいましたら、ご紹介ください。